

## 八街吹奏楽フェスタ



八街市中央公民館を会場に5年ぶりに第17回八街吹奏楽フェスタを開催し、多くのお客様にご来場いただきました。(詳細11ページ)

# 仕事のある充実した心豊かな人生支援に邁進する



社会福祉法人光明会  
常務理事 小澤 啓洋  
(CEO・最高経営責任者)

光明会では令和6年3月17日(日)に令和6年度経営計画発表会を開催しました。この経営計画発表会では参加者全員での健康体操、令和6年度の辞令交付、10年勤続表彰を行った後に、令和6年度経営方針の発表を行いました。令和6年度は障害福祉サービス等報酬改定が行われることに加え、光明会としての創立50周年に向けた第二期がスタートする節目の年に当たります。その節目の年に定めた経営方針のポイントとなる内容について経営方針書から抜粋してご紹介いたします。令和6年度経営方針については紙面の関係で全文をご紹介することができませんが、今後光明会ホームページにアップする予定でありますので、ぜひそちらをご覧ください。

## 経営方針書の「はじめ」に示した光明会の意志表明

我が国の福祉制度が従来の延長線上にあり続けることはありません。人口減少(少子高齢化)社会に直面するなか、過去46年にわたり国民の意識が、モノの豊かさよりも心の豊かさを大切にする「心の時代」にシフトしていたことを国民生活に関する世論調査では示していましたが、令和5年11月の調査結果(概要)では再びモノの豊かさを大切にしたい回答が上回りました。社会のインフレ基調、物価上昇傾向はモノの価値に向かう意識をもたらしました。心の豊かさとは、大事なものを大事にする心です。その心は、人としての根源的な愛情を基に人の役に立つ利他的行動の実践によって深まることには変わりはありません。

今年度の社会福祉法人光明会は、これらの変化に対応して、事業の中心を顧客である「様々な能力のある方々」に「人生に仕事がある喜び、仕事のある充実した人生」を顧客と協働で創造する「心豊かな人生支援」に置くこととしました。さらに「他から受け取ったものへの感謝を原動力として他に尽くし与える社会貢献」「廃棄したあとの新しい価値の創造(このことをイノベーションという。)」「人間性を高める挑戦」「福祉専門職として卓越した支援技量の習得」を生涯をかけて果たすべき役割をもって生を受けた尊い人間としての誇りを持って実践していくために組織改革を進めることを明確にして、各事業計画策定に必要な情報をこの経営方針書に示します。

光明会の経営方針は、社会や制度の変遷に対応し続けてもなお、我が国の先人から受け継ぎ、それを後世に伝えるべき日本人としての根本的なあり方を守り続ける意志の表明です。

## 各事業計画策定にあたって考慮すべき共通事項

今年度は顧客と光明会職員との協働によるありたい人生創造についてはサービス管理責任者サポートユニットを核として、さらに追求するものとします。顧客が主体的にありたい人生を描き、ありたい人生を生き切るための協働支援がすべての光明会職員の職務です。ありたい人生とは、働くことで役割を果たすことと、充実した暮らしを実現することです。一人ひとりの幸せの形をデザインし、誰かの幸せのために懸命に働き、地域社会で愛する人と暮らし、子育てや家庭生活、地域生活において心の豊かさを追求していきます。そのためには支援する側と支援される側を超えた協働による支援体制の構築が不可欠です。顧客の無限の可能性を心から信じて、可能性を追求する機会を保障し続けることが協働支援です。協働支援による思考法は徹底した「顧客志向」にあります。顧客志向のポイントは主語を「顧客は」とすることです。まずは職員側の都合ではなく、顧客にとっては、と考える思考の習慣を身に着けるところから始めましょう。

光明会が組織として責任を果たす目的は、顧客が利他的な活躍をするその人生から社会に勤労観(勤労を尊ぶ態度)と職業観(あらゆる職業の意義を敬う態度)を伝道することにあります。これまでは地域に暮らす人々から組織としての責任を果たし「光明会は地域にとっての共有財産」と信じてもらえるかどうかは、光明会を「光明会さん」と「さん」付けで呼ばれるかどうかを、共有財産としての価値を決める尺度の一つと捉えて取り組んできました。今後はさらに顧客が地域に暮らす人々から親しまれ、慕われ「さん」付けで呼ばれるための利他的な活躍の機会と場を創造できたかどうかを、光明会の価値を決める尺度として取り組むものとします。そのためには顧客の「心豊かな人生」に必要とするパーソナルネットワークを広げ、かつ深める支援が不可欠であることから如何にして交流人口から関係人口へと深化させていくプロセスが重要となります。

また令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の各事業における対応に留まらず、そのリスクと機会を分析し、これからの福祉施策の方向性を見誤ることなく捉え、法人経営力の強化につなげるものとします。

各事業計画書は光明会職員の英知と卓越した力を結集させ、事業成果に結実させることを目的として作成します。

## 顧客焦点、プラス発想と覚悟を前提とする

光明会は、顧客の価値に徹底して焦点を合わせるために、我が国の社会福祉制度の歴史を理解し、現行福祉施策を最大限に活用する視点（プラス発想）と、すべての事業の成果は私たち光明会職員の行動とその習慣に起因するという覚悟をもち、障害福祉サービス事業および公益事業を通じてつぎの2点の実現を目指します。これらのことを通じて福祉社会を実現することを事業指針とします。

### 心豊かな人生支援で顧客の新しい価値をつくる

- ①顧客とそこご家族にとっての新しい価値（顧客価値）の創造（イノベーション）を通じて、顧客にとって心の拠り所となり、成長のための挑戦の機会が保障される障害福祉サービスや関連サービスを提供し「仕事のある充実した人生」を顧客と協働で創造する「心豊かな人生支援」に取り組みます。顧客の行動とその原因や意志について純粋な目で注視します。人生は行動の連続です。行動の結果得られるものは、自らのビジョンにとって不可欠な経験であるからそこには失敗は存在しません。失敗とは、挑戦から逃げて行動を避けることです。経験を積み重ねるために挑戦を繰り返す勇気が必要です。自らのビジョンに向かうことが成長であるから、行動する勇気を協働支援によって引き出すことが「心豊かな人生支援」の中身となります。

### 利他社会をつくる

- ②顧客の利他的行動によって、全ての人々が、感謝と報恩の心で他のために主体的能動的に身も心も素直に捧げる利他的行動（これが「勤勉・勤労」ということです。）を習慣とする地域社会づくりに責任を持ちます。そのためにすべての光明会職員は、人間とは何か、障害とは何かを哲学的にかつ心的に理解する力を養わなければなりません。卓越した支援実践には障害を科学的に理解することが不可欠であることは言うまでもありません。そのために読書、旅、交友が不可欠です。顧客自身が、自らの変わる可能性を信じて張りのある人生を創造できるよう支援します。顧客の権利と義務を尊重し安全な環境を誠実で一貫性のある法人経営の下に提供します。顧客の自立力を高めるために顧客の生活上すべての場面での「安心と快適」を保証します。

このことはすべての光明会職員の勤勉・勤労が習慣化された生き方が基盤にあってこそ実現します。

## 顧客の求める価値に応える強み ～組織の卓越した技量

顧客の求める価値に見合う成果を上げるには、光明会のすべての職員の強みの発揮が前提となります。組織の強みをすべての職員が共有し心から尊敬・尊重するとき、それは他の追随を許さない圧倒的な「卓越した技量」となります。組織の強みを発揮し、すべての職員がその成果を発揮するためにどのような志で行動をすべきか、の観点から自らの学習・成長の道を検討しましょう。

さらに「卓越した技量」は単にスキルの発揮のことでなく、高い人間性の発揚との両軸で実現するものです。つまり「強み×人間性」で決まるから「卓越した技量」とは、三魂すなわち「喜んで大変な道を選ぶ志」「成否を問わず善を為す気概」「他者の行動を待つことなく自らの責任のもとに行動をする自発」に裏付けられるのです。「卓越した技量」の本質は目に見えるものにはなく、いわば水面下に隠れる氷山のようにそれに関わる人の志や行動のプロセスに存在する不可視エネルギーの総体なのです。

光明会の「卓越した技量」を「福祉の専門技量実践研究レポート」にまとめ、積極的に外部に公表する理由は、これを必要とする顧客の求める価値と光明会の求める成果とが一致しているかどうかの評価主体は、光明会にあるのではなく外部の社会にあるからです。

## 目標は進む方向（目的）を確かめるためのものである

令和6年度の行動計画（アクションプラン）立案の指針とすべき達成目標値をCEOが各施設・事業管理者と協働して行い、適時に見直すものとしますが、目標値は、光明会が社会に貢献し続けるための条件です。事業の成果を上げ社会への使命を果たすためにこの条件があります。したがって徹底して目標の達成を目指しますが、目標の達成のプロセスを通じて事業の成果が自然に生み出される状態（システム）を作ることが目的であり、光明会の歩みが正しい方向であるかどうかを点検するために目標値は活用します。

# 障害福祉の卓越した専門性を追求する リーダーたちの決意表明！

## 障害福祉事業部

明朗塾 施設長 山本 樹



サービス管理責任者サポートユニットでは、すべての職員が日々の職務の中でお客様と協働で創造する「心豊かなありたい人生」を徹底的に追求します。

入居系サービス（入所・GH）ではすべてのお客様に地域移行のご意向をお聞きし、グループホームの体験利用、一人暮らしに向けた道筋を仕組み化します。サービスが閉鎖的にならないよう先行して「地域連携推進会議」を設置し、事業の透明性を担保します。B型事業では平均工賃月額 35,000 円以上を維持しつつ、さらに工賃向上を目指すべく「働く態度」の育成に主眼を置きます。生活介護事業では、根拠ある支援（TEACCH、応用行動分析（ABA）等）に基づき支援します。すべてのサービスはお客様のニーズに基づき展開されなければなりませんので、主任サービス管理責任者には、「意思決定支援」について、専門的な関わりと役割を求め、「心豊かなありたい人生」の実現を全力で進めてまいります。

明朗塾

主任サービス管理責任者 幸島 繁



今年度、新たな役割として、主任サービス管理責任者を担うことになりました。

お客様の権利擁護する体制構築、卓越した専門性をもって個別支援計画の策定と支援実践を遂行する体現者となります。

法人全体のサービス管理責任者の育成およびサポートにおいても責務を果たします。

おいしい事業

料理長 松本幸一



お客様が食事に興味を持ち、食の楽しさを感じていただけるよう、今年度は選択メニューの機会を増やすことや新メニュー開発に力を入れていきます。栄養士には、食事に関することなら何でもご相談ください。栄養管理をしながらお客様が安心して食事を召し上がっていただけるよう職員一丸となり、取り組んでまいります。

インディペンデンス  
管理者 文違明香



今年度は、お客様のありたい地域生活に向けて、グループホーム生活後の一人暮らしなどの独立した生活スタイルをお客様と共に模索していきます。また、食事を提供するだけではなく、お客様にも調理の工程に携わっていただき、料理する楽しさを体験できる企画や休日の外出行事を増やし、余暇の充実を目指します。

八街市障がい者就労支援事業所  
明朗ワークス 管理者 岩澤勇二



明朗ワークスは、お客様の権利擁護を最重要テーマとして、事業所運営に取り組みます。

また、お客様の「働く力」を伸ばすため、お客様が中心となり作業に取り組める作業の5Sを基本とした環境調整および職員の支援体制を整え、お客様と協働して工賃向上を目指します。

## 事業推進サポートユニット

相談支援事業所MEI  
管理者 村田かおり



今年度よりMEIの事業管理者となりました村田かおりです。障害のある方やそのご家族の希望される暮らしができるよう社会資源の把握、各関係機関との連携に努めます。

また、障害のある方やそのご家族が利用されるサービスにご満足していただけるよう相談支援専門員一同努力してまいります。

障害者就業・生活支援センター  
就職するなら明朗塾  
センター長 山口 諭



令和6年度は印旛圏域における就労支援ネットワークを構築するため、就労系福祉サービス事業所、特別支援学校、ハローワークを対象とした連絡会を発足し、障害のある方の就労に向けた連携を強化することを主軸とし、引き続き地域との関わり、貢献を通じて必要とされる障害者就業・生活支援センターを目指します。

## 障害福祉事業部

ウエルネス倶楽部・明朗カレッジ  
事業管理者 木内正弘



就職するなら明朗アカデミー・八街キャンパスは、令和5年11月から、多機能型事業所「ウエルネス倶楽部・明朗カレッジ」に事業所名を変更し、就労移行支援・定着支援に加え、就労継続支援B型が新たにスタートしました。B型の管理者は初めてですが、就職と工賃向上の両方を目指し、職員と一緒に取り組みます。

就職するなら明朗アカデミー・佐倉キャンパス  
サービス管理責任者ユニットサポーター  
事業管理者 兼坂 渉



令和6年4月から、一年半ぶりに再び佐倉キャンパスの事業管理者を務めることになりました。佐倉キャンパスを取り巻く職員の体制や環境が以前とは変わっていますので、現在の環境にあわせた新しい佐倉キャンパスを作り上げます。そして、職員と一丸となって、より多くの障害のある方々の就職支援に取り組んでまいります。

就職するなら明朗アカデミー・成田キャンパス  
事業管理者 秋坂 翔



令和6年4月から成田キャンパスの事業管理者を新たに務めることになりました。初めての事業管理者業務でまだまだわからないことばかりですが、精一杯頑張ります。成田キャンパスでは新たに「就職相談・定着支援コース」を創設しました。お客様のご希望に合わせた就労支援をお客様と職員が二人三脚で行います。

就職するなら明朗アカデミー・白井キャンパス  
事業推進サポートユニットサポーター  
事業管理者 高木夢貴



令和6年4月から白井キャンパス事業管理者を務めることになりました。お客様が白井キャンパスに通所したくなる事業所づくりを目指し、就職を第一に考えた支援を実践します。お客様に提供するプログラムの幅を広げ、質を上げていくことで白井の地域に暮らす方に新たな価値を提供していきます。

## イノベティブ・サポートセンター

法人総務部  
管理・メンテナンス室  
部長 室長 鈴木幸子



職員のライフサポートとして定期的な情報提供（保険、投資、貯蓄等）と併せ、改定した健康管理規程を運用することで、お客様支援の現場で従事する職員の勤労意欲満足度を高めることを目指します。さらに、障害者雇用優良中小事業主認定（もにす）事業者登録を進め障害者雇用支援の専門家から障害者雇用の専門家の道を追及します。

地域共生社会推進本部  
本部長 小澤孝延



地域共生社会推進本部では、「めいろう夏まつり」や「めいろう花桜菜マルシェ」などのイベントを通じて、障害のある方と地域の子たちが交流できるような企画をしています。人と人が繋がるきっかけとなる場を新たに創造していきながら、誰もがその人らしく暮らし続けられるようなインクルーシブな地域共生社会の構築に向けた活動をしていきます。

ICT推進室  
室長 岩澤芽実



ICT推進室は、職員のICTリテラシーの向上を図るために、研修チームと情報管理規程チームに分かれて活動し、クラウドなどの情報ツールをより効率的に確実にし、職員が安心して業務を継続することができる環境を提供できるよう努めていきます。

コンプライアンス室  
室長 高橋沙織



コンプライアンス室では、法人内でのコンプライアンス違反を未然に防ぐことと、コンプライアンス意識を浸透させることなどを目的としています。顧問弁護士や事業管理者、各担当と連携しお客様・職員・法人の安心安全が保持できるよう法令遵守で活動していきます。

# 知識は実践を積むことで知恵に昇華する

## 第2回福祉の専門技量実践研究発表会

### 光る福祉アワード付与事業 優秀な研究レポートと虐待防止啓発標語募集

社会福祉連携推進法人光る福祉  
代表理事 内藤 晃（開拓理事長）



社会福祉連携推進法人光る福祉は、社会福祉法の規定により社員の互助的活動として連携推進業務を行います。中でも「人材確保等業務」は構成社員による社会に有為な人材育成を目指し、合同募集、社員間の人事交流、合同研修の実施等の調整を行うものです。

令和6年2月3日の「第2回福祉の専門技量実践研究発表会」は、この一環で構成社員（社会福祉法人光明会と社会福祉法人開拓と株式会社グッドライフ）からエントリーされた職員の研究レポートの事前査読と発表プレゼンを合わせて評価し「光る福祉アワード」を贈呈する事業です。

当日発表された10本（うち共同研究が6）の研究テーマや光る福祉アワードの結果は別記されています。今回の事前査読は3名、当日のプレゼン評価は7名の光る福祉の役員等により実施しました。

福祉専門職として説明責任を果たすことは大切なことです。そのために自らの実践を振り返り、その分析と考察を文書にまとめ、それを第三者に示して評価を受けることは尊いことです。真摯に取り組む努力の姿勢に敬意を表します。なお、説明責任を果たす目的からすれば関係者に伝えたいメッセージは何かをさらに明確になっていくことを期待します。

また当日は、2024（児童・高齢者・障害者）虐待防止推進キャンペーンとして「光る福祉 虐待防止啓発標語募集事業」に応募された作品から最優秀作品の選考と表彰も行いました。

「見てあげて 隠せぬ傷と その瞳」（児童分野）

「もしかして？ その通報に守られて」（高齢分野）

「気にかける 助ける心 その勇気」（障害分野）



社会福祉連携推進法人光る福祉  
業務執行理事 小澤啓洋  
（光明会副理事長）

### 「学び続けることが 福祉人の資格」

エントリーされた福祉の専門技量実践研究レポートを事前査読への提出と当日のプレゼン発表に参加された職員の皆様には日々の支援に加えての取組に心からの敬意を表します。

これまでも光明会としては研究成果発表会を1つの法人で開催していましたが、昨年からは3つの法人が合同で開催するようになり、学びの幅が格段に広がっていることを実感しています。「井の中の蛙大海を知らず」とは良い意味では使用されませんが、今回の学びの広がりから「井の中の蛙大海を知らず、されど空の蒼さを知る」というように、福祉の道を極めんとする、学びどこまでも深まっていくことを期待します。



社会福祉連携推進法人光る福祉  
理事 熊木正嗣氏  
（グッドライフ代表取締役）

### 「福祉における 先駆的な取組」

前回より、一層「支援の考え方」の精度が上がっているように感じました。

福祉ではこうした研究発表会で相互に知識・技量を高め合う文化がまだまだ少ない中で、このアワードは画期的な取り組みです。

今後は更にこれを深め、より科学的な検証を加えることで、光る福祉だけでなく業界全体に影響のあるアワードに盛り上げていただけていくことを期待しております。

タイムスケジュール

時間	内容	役割																						
13:30～13:40	開会挨拶・趣旨説明	代表理事 内藤 晃																						
13:40～15:40	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者氏名</th> <th>発表演題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幸島 繁</td> <td>構造化の支援実践</td> </tr> <tr> <td>山中恵理</td> <td>働く態度のチェックリストの活用</td> </tr> <tr> <td>兼坂 渉</td> <td>就職するなら明朗アカデミー・八街キャンパスの事業再編までのプロセスについて</td> </tr> <tr> <td>大須賀サヨ子</td> <td>技能実習生に成果を上げさせる取り組みの提案</td> </tr> <tr> <td>鎌形佳由 (代表)</td> <td>地域における医療的ケア児の受入体制の土台作りの課題と解決に向けた提案</td> </tr> <tr> <td>山下昌代 (代表)</td> <td>子どもエリアのインクルーシブ保育の実践を通して</td> </tr> <tr> <td>船木瑠衣子 (代表)</td> <td>軽度発達障害児の個別療育の取り組みと今後の提案</td> </tr> <tr> <td>小山内 翼 (代表)</td> <td>ムーブメント教育療法を通じた保育士の成長支援への取り組み</td> </tr> <tr> <td>上岡千恵 (代表)</td> <td>親子支援を通して得られた保護者支援の実践事例報告</td> </tr> <tr> <td>長島光輝</td> <td>当事業所における放課後等デイサービス利用者の身体的特徴について</td> </tr> </tbody> </table>	発表者氏名	発表演題	幸島 繁	構造化の支援実践	山中恵理	働く態度のチェックリストの活用	兼坂 渉	就職するなら明朗アカデミー・八街キャンパスの事業再編までのプロセスについて	大須賀サヨ子	技能実習生に成果を上げさせる取り組みの提案	鎌形佳由 (代表)	地域における医療的ケア児の受入体制の土台作りの課題と解決に向けた提案	山下昌代 (代表)	子どもエリアのインクルーシブ保育の実践を通して	船木瑠衣子 (代表)	軽度発達障害児の個別療育の取り組みと今後の提案	小山内 翼 (代表)	ムーブメント教育療法を通じた保育士の成長支援への取り組み	上岡千恵 (代表)	親子支援を通して得られた保護者支援の実践事例報告	長島光輝	当事業所における放課後等デイサービス利用者の身体的特徴について	
発表者氏名	発表演題																							
幸島 繁	構造化の支援実践																							
山中恵理	働く態度のチェックリストの活用																							
兼坂 渉	就職するなら明朗アカデミー・八街キャンパスの事業再編までのプロセスについて																							
大須賀サヨ子	技能実習生に成果を上げさせる取り組みの提案																							
鎌形佳由 (代表)	地域における医療的ケア児の受入体制の土台作りの課題と解決に向けた提案																							
山下昌代 (代表)	子どもエリアのインクルーシブ保育の実践を通して																							
船木瑠衣子 (代表)	軽度発達障害児の個別療育の取り組みと今後の提案																							
小山内 翼 (代表)	ムーブメント教育療法を通じた保育士の成長支援への取り組み																							
上岡千恵 (代表)	親子支援を通して得られた保護者支援の実践事例報告																							
長島光輝	当事業所における放課後等デイサービス利用者の身体的特徴について																							
15:40～15:50	休憩																							
15:50～16:40	質疑応答	会場参加者																						
15:50～16:40	講評・評価と award 対象決定の協議	理事・監事・評議会構成員																						
16:40～16:55	光る福祉 award 表彰式 虐待防止に関する標語 優秀作品発表	代表理事 内藤 晃																						
16:55～17:00	閉会挨拶・総括	業務執行理事 小澤啓洋																						

第2回福祉の専門技量実践研究発表会 光る福祉アワード 受賞者の紹介！



株式会社グッドライフ  
 児童発達支援事業所および放課後  
 等デイサービス事業所  
 シードリーフ神栖  
 理学療法士 長島光希氏

今回のテーマ選定の理由は、日々子ども達と触れ合う中で、現代の傾向である室内遊びやゲーム等の普及により外出機会の減少や子ども達のロコモティブシンドロームについて考えていく必要があると感じたからです。事業所に通われている子ども達たちの身体機能の現状や要因、その改善策について自分の考えを発表し、いろいろな方からの意見を取り入れてアップデートしていきたいと思い、第2回「光る福祉アワード」に参加させていただきました。

当日は、皆さんの支援に対する思いや各事業所における取り組みを知ることができ、支援に活かせる内容が盛りだくさんな1日となりました。今回の受賞は熊木社長をはじめ、ご協力・応援していただいた職員の皆様、ご利用者様のご協力のおかげであり、発表する貴重な場をいただいたことに感謝しながら取り組んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。

(文責 事業管理者 兼坂 渉)



▲写真左 代表取締役 佐藤宣幸氏

▲写真右 ジョブコーチ 岡野慶光氏

「作る楽しさ 料理する楽しさ 食べる楽しさ 笑顔と感動を提案します」

皆さまはエディブルフラワーをご存知でしょうか。レストランで提供される料理やドリンクに花が添えられているのを見たことがあるかもしれません。エディブルフラワーは飾りの花ではなく、食べられる花ということを目指しています。見た目が美しく、料理に彩りのアクセントを付けて華やかさを演出することができます。またマイクログリーンと呼ばれる若芽野菜は、香りが良く栄養価に優れた野菜として注目を集めています。

「MERCATO ちば fattoria」は千葉県富里市に位置しています。エディブルフラワーやマイクログリーン、西洋野菜を栽培して、東京、大阪をはじめ全国のホテルやレストランに出荷しています。

会社の取り組みとして、社会参加の取り組みをサポートし「人の役に立つこと」を当たり前と感じられる働く場所を提供しています。

(今回は MERCATO ちば fattoria 農場担当者・ジョブコーチの岡野慶光氏にインタビューを行いました)

### 障害のある方への配慮について (岡野慶光氏)

MERCATO ちば fattoria は現在、2名の障害のある方を雇用しています。療育手帳のある知的障害の方が会社の一員として働かれています。

法人の事業展開を進めるにあたって、農福連携を通じて障害のある方と企業の双方が Win-Win になってほしいとの願いから、障害者雇用を始めました。

作業内容としては、エディブルフラワーのパック詰め、計量、ラベル貼りを担当されています。特にパック詰め工程は、繁忙期になると1日あたり100パックの作業が行われています。

配慮すべき点として、食品を扱っているため、衛生面や安全面に対して注意するように伝えています。ハサミや霧吹き器具を大切に扱うことを伝えた上で、一つひとつの工程に対しても目を配りながら、作業の進捗を見守るようにしています。





▲エディブルフラワーのパック詰め工程



▲インタビューに応じる岡野 慶光氏

作業内容は個々のペースに合わせて、作業内容の説明や切り出しをしています。例えば、パック詰め工程は見本をつくり、工程を確認しながら進められるように配慮しています。精細で見栄えが美しい商品づくりのため、作業スペース上に卓上のパーテーションを設けて集中できる環境を整えています。また、言葉ひとつの指示出しでも、具体的に内容を伝えて曖昧な表現は避けています。

成長速度や習得レベルが異なるため、長期的に見守ること、本人のモチベーションの維持になるような声かけを心がけています。

### ノーマライゼーションの社会を目指したい（岡野慶光氏）

障害者雇用をもっと良くしたいとの思いから、ジョブコーチの資格を取得しました。研修を受けた中で印象に残ったのは「ノーマライゼーション」というキーワードでした。障害の有無にとらわれず、日常的に働いている風景が当たり前の社会になることを望んでいます。

障害のある方を雇用したことでプラスの作用が得られたエピソードをご紹介します。作業室内で快適に過ごせる環境を整えるためにエアコンを整備しました。今までは空調が無かったため、休憩時間は個人の車の中で過ごす方が多く、社員間でコミュニケーションを取る機会が少なかったように感じます。設備環境を整えた結果、事業所内で昼食を食べる従業員が多くなり、互いにコミュニケーションを取る機会が増えたということがありました。

障害者雇用を通じて社内の雰囲気が変わり、柔らかい空気感に変化していること。また社員同士がお互いに気遣いながら仕事を進めている様子を見て、会社がよりよい方向性へと進んでいると感じています。

他の企業において障害者雇用を検討されているのであれば、まずはチャレンジしてほしいと願っています。障害のある方を雇用することで得られる気づきや変化を通じて、業務の切り出し方や効率化を見直す機会になるのではないのでしょうか。

### MERCATO ちば fattoria で働いている障害のある方にインタビューを行いました

K・C様

「花が好きでこの仕事に興味を持ちました。休憩時間に コミュニケーションを取るのが楽しいです。」

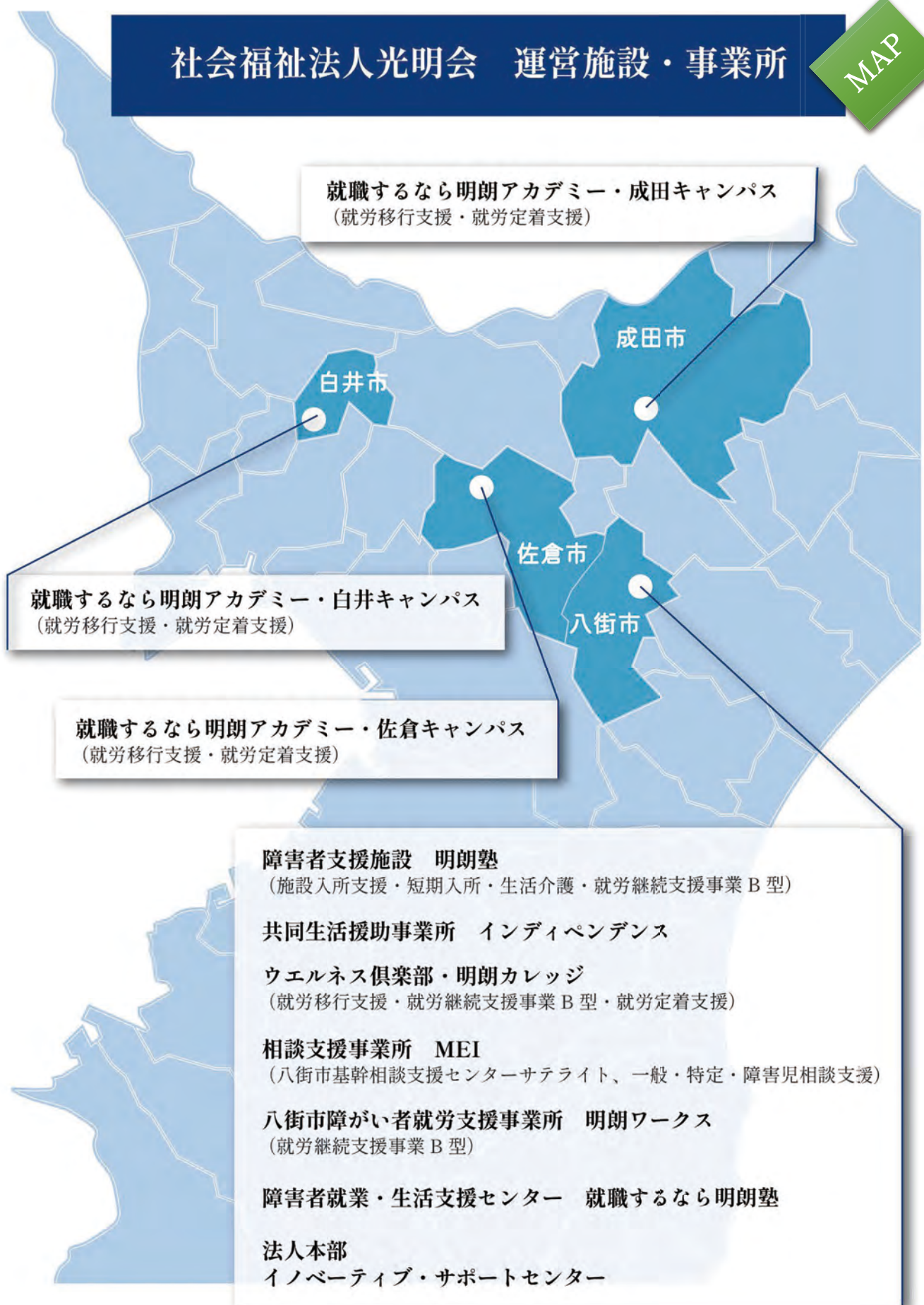


I・K様

「仕事で心がけていることは健康に気を付けています。腰を痛めないようにストレッチをしています。」

# 社会福祉法人光明会 運営施設・事業所

MAP



# 音楽を耳で! 肌で! 感じる体験

## 第17回八街吹奏楽フェスタ♪

令和6年2月25日(日)に社会福祉法人光明会と社会福祉法人八街市社会福祉協議会の共催で、第17回八街吹奏楽フェスタが八街市中央公民館を会場に開催されました。今年の演奏者は、土気シビックウインドオーケストラ、八街市ウィンドシンフォニア、八街北中学校、千葉黎明高等学校の総勢135名でのコンサートになりました。新型コロナウイルス感染症の影響で、5年ぶりの開催となりました。この5年間、思うように練習ができないことや人数が減ってしまうことで活動ができない状況になるなど、多くの影響を受けました。それら乗り越え、無事に当日を迎えられたことを本当にうれしく思います。

当日、ご来場いただいた方の多くは、何度も足を運んでくださっている方々でしたが「今回が初めて」という方も多く足を運んでくださいました。多くの方と久しぶりに音楽を通じて1つになれたことで改めて音楽の力を感じる瞬間でした。

また同時に開催をしためいろうフェスタでは、多くの方にご協力をいただき、飲食物の販売を行いました。日ごろの成果を“製品”として、ご来場者の皆様にお買い求めいただき、障害のある方の活動などについても知っていただく機会になりました。

当日、お足元の悪い中多くの方にお越しいただき、ありがとうございました。



### プログラム

#### 土気シビックによる演奏

- ・セカンド・センチュリー (A, リード)
- ・ウエルカム (真島俊夫)
- ・フラッシング・ウインズ (ヤン・ヴァンデルロースト)
- ・モヒート (星出尚志)・セント・アンソニー・ヴァリエーション (W.ヒル)

#### 中学生と高校生との合同演奏

- ・新しい日の夜明け (ジェイムズ・スウェアリンジェン)
- ・アイドル

#### 土気シビックと高校生と一般との合同演奏

- ・2024年吹奏楽コンクール課題曲より  
メルヘン (酒井 格)  
フロンティア・スピリット (伊藤宏武)
- ・宝島



#### ♪当日アンケートから(抜粋)♪

- ・久しぶりにたくさんの音を浴びることができ  
しびれました。心に染みしました。
- ・中高生たちの努力と頑張りが良く伝わりました。
- ・生の演奏に感動しました。
- ・めいろうフェスタは大盛況で売り切れの  
商品がありました。
- ・とてもおいしいものばかりで楽しかった。
- ・販売や屋台は楽しい。

(文責 就業支援担当(精神担当) 藤井佳奈)

# 支援の在り方を考える

## ～明朗塾支援実践報告会～

令和6年1月26日（金）明朗塾を会場に日々の支援実践を振り返るため、明朗塾支援実践報告会を開催しました。ゲスト講師には千葉県発達障害者支援センター（通称：CAS）の白井潤記様をお招きし、また内藤晃専務理事にも参加いただきました。1部では2名の職員から支援実践の報告がありました。2部では事例を基にグループディスカッションを行い、様々な視点から意見を出し合い、支援の考え方、在り方について活発な意見交換を行い、学び多き時間となりました。



報告者

（左）二尾啓太（右）栗原 徹

応用行動分析に基づきお客様の課題行動に関する分析を行い、支援を実践しました。日々の支援の中で課題となっている行動を分析し支援の方法を考え、実践していくことが支援者として必要な考え方であると学びました。

今後も実践を積み重ねていきます。



指導員  
栗原 徹



指導員  
二尾啓太

東京学芸大学名誉教授の菅野敦先生の提唱する「働く態度を伸ばす」ための支援が本格的に動き始めました。働く力向上委員会も新たに設立され、光明会全体で態度の階層について実践を積み重ねています。態度の育成にあたり環境調整が基本になります。まずは、5Sの徹底、習慣化することを意識して取り組んでいきます。



講師  
（左）内藤晃専務理事  
（右）白井潤記氏

<講師の白井潤記様より講評>

やる気やモチベーション（動機づけ）を支えるにはご本人さんのニーズに応じた支援、環境設定を組む必要があります。

今回の実践では最初に「外出したい」「ドライブに行きたい」といったご本人さんのニーズに応じたところが素晴らしいと思います。また、アセスメントに基づいて作業や役割を設定したことも良かった点と言えるでしょう。動機づけを支える芯から始め、できることを増やしていく、総じてお手本のような支援であったと思います。

（文責 指導員 栗原 徹）